



千葉銀行Webサイト  
(IRライブラリ)



# 2024年3月期 第1四半期 決算の概要

2023年8月4日

- 皆さまこんにちは、淡路でございます。決算説明の前に、千葉銀行及びちばぎん証券が受けた行政処分について報告致します。
- 本年6月9日、証券取引等監視委員会から内閣総理大臣及び金融庁長官に対し、当行とちばぎん証券に、仕組債の勧誘販売に係る行政処分を行うよう勧告が出されました。
- これに基づき同月23日、当行とちばぎん証券は関東財務局より業務改善命令を受けました。7月24日、当行とちばぎん証券は、業務改善報告を提出しました。
- このような事態に至ったことにつきまして、関係する皆さまに多大なるご迷惑とご心配をおかけしましたことを、改めて心よりお詫び申し上げます。
- 本来であれば、当局へ報告した内容は速やかに公表すべきところですが、改善・再発防止に向けた取組みについて、現在も調査を継続しているところです。
- これらの内容や関係者の処分等につきましては、準備が整い次第改めて報告いたします。ご理解のほど、よろしくお願い申し上げます。
- それでは、2024年3月期 第1四半期決算につきまして、資料に基づき説明いたします。
- 2ページをご覧ください。

## 2024年3月期 第1四半期 決算

業績概要	2
業績概要（連結）	3
資金利益	4
貸出金平残・利回り	5
貸出金未残・預金未残	6
有価証券①②	7-8
役務取引①②③	9-11
与信関係費用・金融再生法開示債権	12
経費	13
自己資本比率・ROE・株主還元	14
DX	15

## 補足資料

国内資金利益の改善の背景①～事業性貸出～	17
国内資金利益の改善の背景②～ローン～	18
貸出金収益の改善シミュレーション	19

パーパス  
一人ひとりの思いを、  
もっと実現できる  
地域社会にする

ビジョン  
地域に寄り添う  
エンゲージメント  
バンクグループ

第15次  
中期経営計画

エンゲージメント  
バンクグループ  
～フェーズ1～

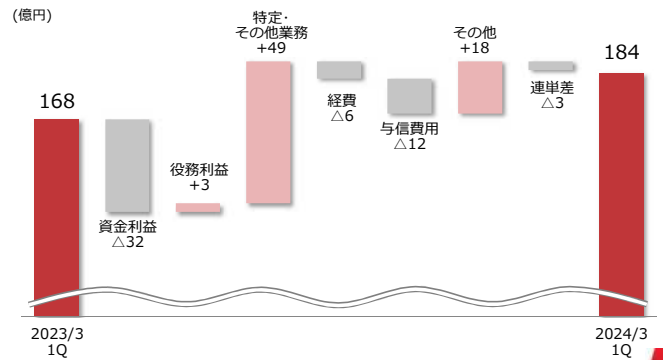
計画期間  
2023年4月～2026年3月



単体	2023/3			2024/3	
	1Q	1Q	前年同期比	計画	進捗率
業務粗利益	442	462	19	1,703	27.1%
資金利益	414	382	△32	1,335	
役員取引等利益	61	64	3	313	
特定取引利益	3	3	△0	22	
その他業務利益	△37	11	49	32	
うち債券関係損益	△54	△2	52	15	
経費(△)	204	211	6	848	24.9%
業務純益(一般貸引繰入前)	237	250	13	855	29.3%
コア業務純益	292	253	△38	839	30.2%
除く投資信託解約損益	265	244	△21	816	29.9%
一般貸倒引当金繰入額(△)	-	-	-	△2	
業務純益	237	250	13	857	29.2%
臨時損益	22	34	11	△27	
うち不良債権処理額(△)	△10	1	12	72	
うち貸倒引当金戻入益	10	0	△10	-	
うち株式等関係損益	10	36	25	50	
経常利益	260	285	24	830	34.3%
特別損益	△0	△0	0	△2	
四半期純利益	197	216	19	590	36.7%
与信関係費用(△)	△10	1	12	70	2.6%
連結					
連結経常利益	239	259	19	880	29.4%
親会社株主に帰属する四半期純利益	168	184	15	610	30.1%
(参考)					
連結業務純益(一般貸引繰入前)	229	241	12	963	25.1%

- ◆ 主に以下の変動要因がある中で、業務粗利益は第1四半期として過去最高を更新とトップラインは好調に推移
  - ・ 外貨金利上昇影響等により資金利益は前年同期比△32億円と減少
  - ・ 役員取引等利益は同+3億円と好調を維持
  - ・ 債券関係損益は前年同期に実施した外債売却損失計上の影響等が剥落したことで同+52億円
- ◆ 投信解約損益を除くコア業務純益は同△21億円
- ◆ 与信関係費用は1億円の計上に留まり、抑制されている
- ◆ 四半期純利益は、単体が過去最高を更新し通期計画に対する進捗率は36.7%、連結が3期連続増益となり進捗率30.1%と順調に推移

親会社株主に帰属する四半期純利益の増減要因(単体+連単差)



Copyright © 2023 The Chiba Bank, Ltd. All Rights Reserved.

- 最初に業績の概要です。
- トップラインの業務粗利益は前年同期比19億円増加の462億円と、第1四半期として過去最高を更新しました。
- 役員取引等利益は3億円増加と好調です。
- 資金利益は、投信解約益の計上を抑制したことや外貨ファンドの収益減少、及び海外金利上昇による調達コスト増加等を受けて32億円減少しましたが、国内の貸出金利は増加しています。
- また、前年は外債売却で大きく損失計上した債券関係損益が、今期は52億円改善しています。
- 投信解約益を除くコア業務純益では、21億円の減少となっています。
- 与信関係費用は、前年同期に17億円計上した一般貸倒引当金戻入益がなくなり、12億円増加しましたが、計上額は1億円に留まっています。
- これらの結果、四半期純利益は単体が過去最高の216億円となり、通期計画に対する進捗率は36.7%、連結は3期連続増益の184億円となり、進捗率は30.1%と、いずれも順調に推移しています。
- 3ページをご覧ください。

連結	(億円)	2023/3 1Q	2024/3 1Q	前年同期比
連結粗利益		434	451	17
資金利益		373	340	△ 33
役員取引等利益		90	94	3
特定取引利益		7	5	△ 1
その他業務利益		△ 37	11	49
営業経費 (△)		220	230	9
与信関係費用 (△)		△ 10	5	15
一般貸倒引当金繰入額 (△)		-	2	2
不良債権処理額 (△)		△ 10	3	13
株式等関係損益		10	36	25
持分法投資損益		0	0	0
その他		5	6	1
経常利益		239	259	19
特別損益		△ 0	△ 0	0
税金等調整前四半期純利益		239	259	19
法人税等合計 (△)		70	75	4
四半期純利益		168	184	15
非支配株主に帰属する四半期純利益		-	-	-
親会社株主に帰属する四半期純利益		168	184	15
(参考)				
連結業務純益 (一般貸引繰入前)		229	241	12

子会社の状況

※連結決算用に組替後のPL表示

【連結子会社】		【持分法子会社】			
会社名	出資割合 (間接含む)	利益項目 (子会社間配当控除後)	2023/3 1Q	2024/3 1Q	前年同期比
ちばぎん証券	100%	経常利益	1	△ 0	△ 1
		四半期純利益	1	△ 0	△ 1
ちばぎんリース	100%	経常利益	2	1	△ 0
		四半期純利益	1	1	△ 0
ちばぎん保証	100%	経常利益	14	12	△ 2
		四半期純利益	9	7	△ 1
ちばぎん ジェーシーピーカード	100%	経常利益	2	2	0
		四半期純利益	1	1	0
その他5社 合計	100%	経常利益	1	1	△ 0
		四半期純利益	1	1	△ 0
合計		経常利益	23	18	△ 5
		四半期純利益	15	11	△ 3

【持分法子会社】				
6社 合計	持分法に応じた 四半期純利益	0	0	0

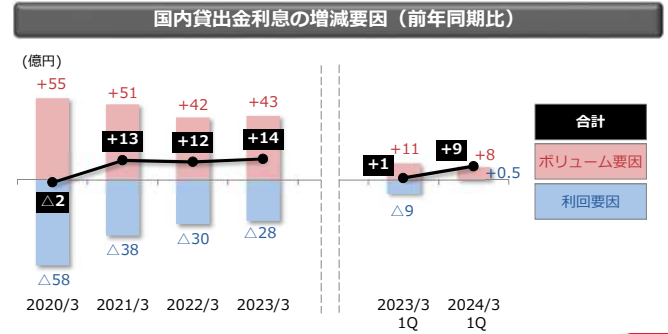
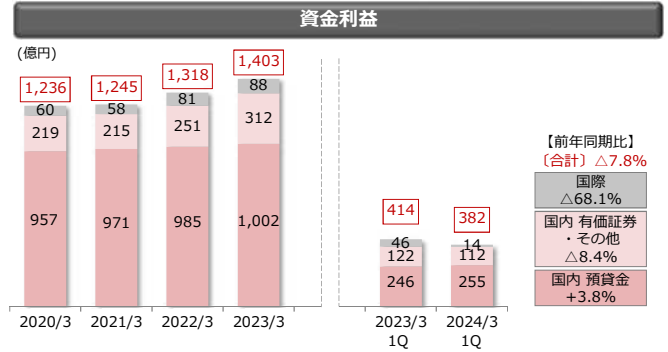
親会社への配当(△)	44	44	0
連単差 ※	△ 28	△ 32	△ 3

※未実現利益等の調整後

- 左が連結決算の概要、右が子会社決算の状況です。
- ちばぎん証券は昨年8月に販売を停止した仕組債の影響で、減益となりました。
- 4ページをご覧ください。

(億円)	2023/3 1Q	2024/3 1Q	前年同期比
資金利益	414	382	△ 32
国内資金利益	368	367	△ 0
預貸金利息	246	255	9
貸出金	246	255	9
預金+NCD (△)	0	0	△ 0
有価証券利息配当金	113	108	△ 4
債券	6	12	5 (※)
株式配当金	78	75	△ 2
投資事業組合	0	0	△ 0
投信	28	21	△ 7
うち解約益	13	9	△ 3
その他(市場運用調達等)	9	3	△ 5
国際資金利益	46	14	△ 31
貸出金	17	58	40
外国証券	62	63	0
外国証券	29	55	26
外貨ファンド	18	6	△ 11
投信	14	0	△ 14
うち解約益	14	-	△ 14
その他(調達、市場運用等)	△ 33	△ 107	△ 73
資金利益(除く投信解約益)	387	372	△ 14
投信解約益	27	9	△ 17

※債券アセットスワップを加味した場合、債券利息は前年同期比△0億円となる

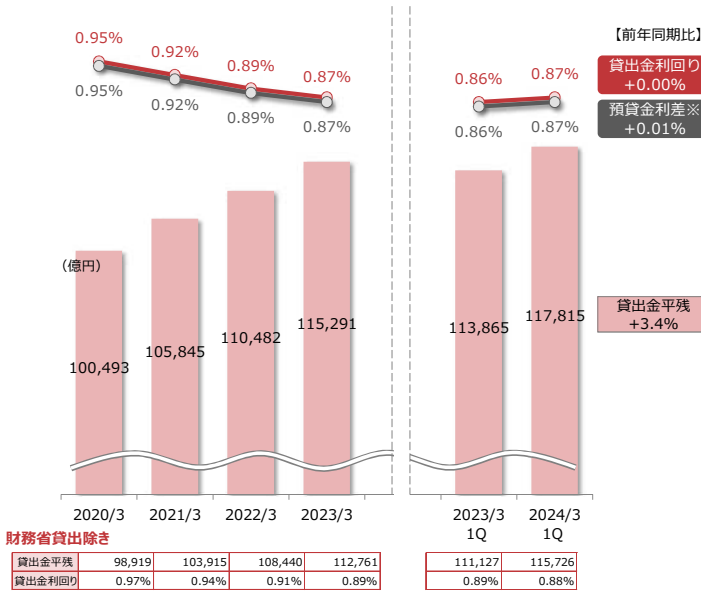


Copyright © 2023 The Chiba Bank, Ltd. All Rights Reserved.

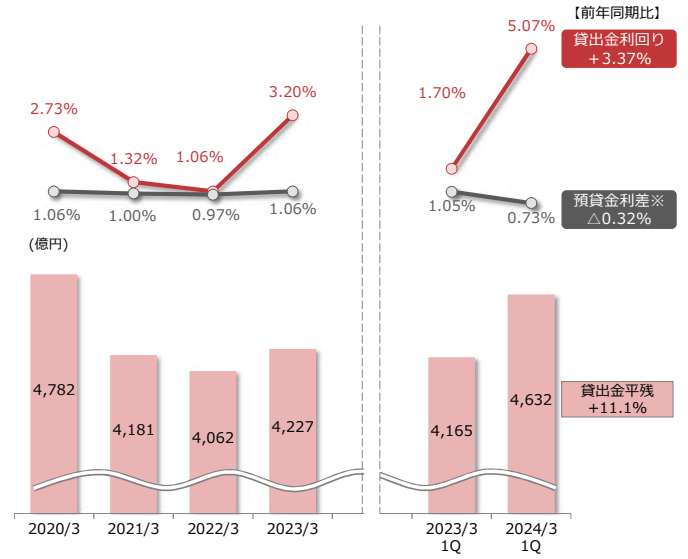
- 国内資金利益の貸出金利息は、これまで利回りの低下をボリュームの増加で打ち返す傾向が続いておりましたが、今四半期は利回りも15年ぶりにプラスに転じ、利回り・ボリュームいずれも資金利益の増加に貢献しています。
- 国際資金利益は投信解約益の計上を抑えたことや、外貨ファンドの収益が減少したこと、海外金利上昇により利鞘が悪化したことなどにより減少しており、国内・国際合計の資金利益全体では32億円減少しました。
- 次に、6ページをご覧ください。

国内業務部門 貸出金平残・利回り

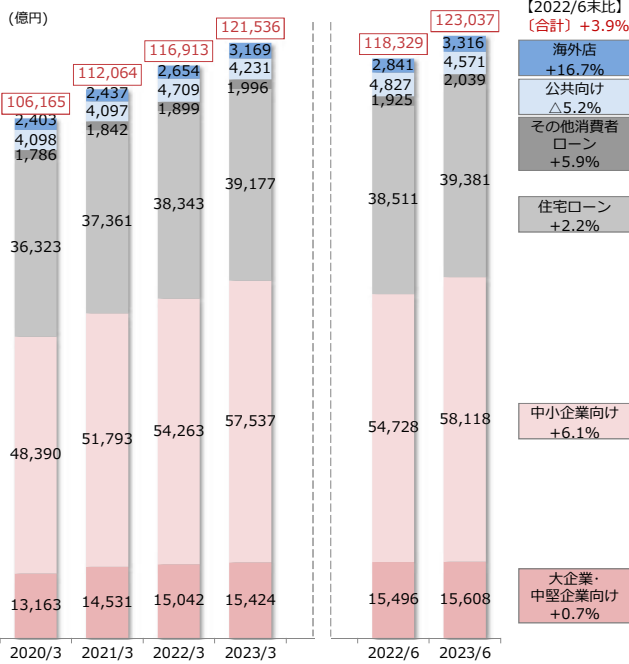
※①貸出金利回り・②預金利回り(NCD含む)ともに小数点第2位未満切捨て、  
 預貸金利差は①②ともに小数点第2位未満切捨て後の数値を差引き算出



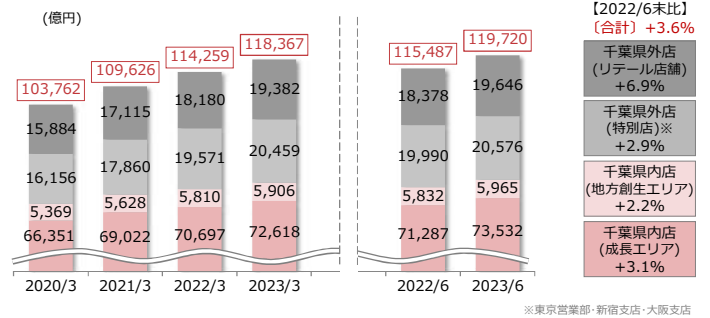
国際業務部門 貸出金平残・利回り



貸出金末残

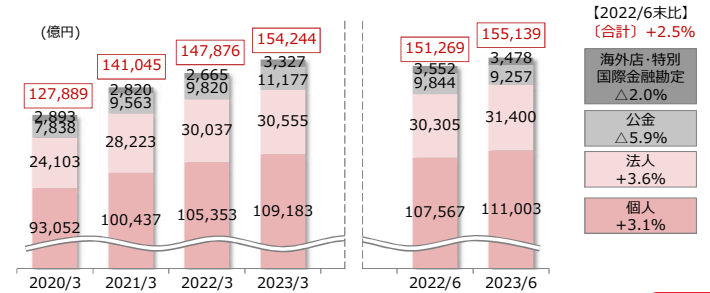


国内 貸出金末残 (エリア別)



※東京営業部・新宿支店・大阪支店

預金末残

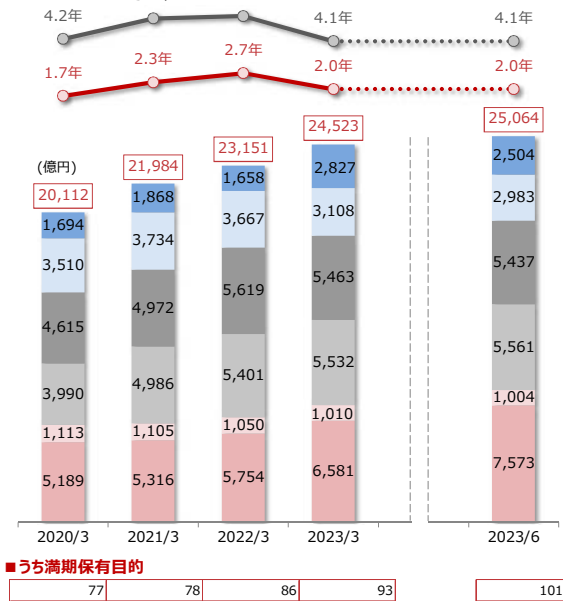


Copyright © 2023 The Chiba Bank, Ltd. All Rights Reserved.

- 貸出金は、好調を維持しており、全体で前年同期比3.9%増加しました。
- 国内貸出をエリア別で見ると、千葉県外の店舗が残高の伸びを牽引しています。
- 預金は、前年同期比で2.5%増加しています。全体の7割が個人預金であり、安定しています。
- 7ページをご覧ください。

有価証券末残※1・平均残存期間※2

※1 末残は評価損益を除くベース  
 ※2 平均残存期間はアセットスワップ考慮後のベース



【2023/3末比】

円債  
平均残存期間  
△0.0年

外債  
平均残存期間  
△0.0年

〔合計〕+2.2%

国債  
△11.4%

地方債  
△4.0%

社債等  
△0.4%

投信等  
+0.5%

株式  
△0.6%

外貨建有価証券  
+15.0%

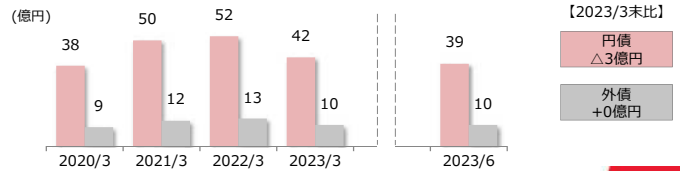
■うち満期保有目的

2020/3	77	78	86	93	101
--------	----	----	----	----	-----

有価証券関連損益

(億円)	2023/3 1Q	2024/3 1Q	前年同期比
有価証券利息	175	171	△3
債券	36	67	31
国内業務部門	6	12	5
国際業務部門	29	55	26
株式	78	75	△2
投信等	60	28	△32
うち投信解約損益	27	9	△17
国債等債券損益	△54	△2	52
うち売却益	2	1	△0
うち売却損(△)	57	3	△53
うち償却(△)	0	0	0
株式等関係損益	10	36	25
うち売却益	11	36	24
うち売却損(△)	0	-	△0
うち償却(△)	0	-	△0

10BPV

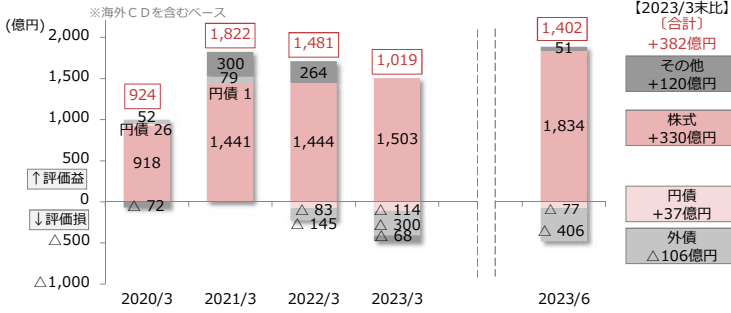


Copyright © 2023 The Chiba Bank, Ltd. All Rights Reserved.

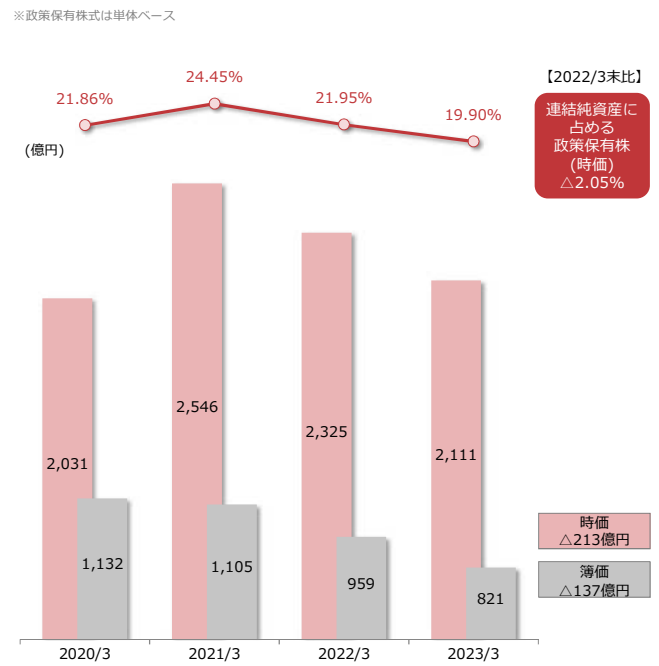
- 有価証券は、引き続きリスクを抑えた運用を行っており、債券の平均残存期間は円債、外債共に今年3月末から変化はありません。
- また、有価証券関連損益では、株式市場が好調だったことから前倒しで株式を売却したため、株式売却益が前年同期比24億円増加しました。
- 8ページをご覧ください。



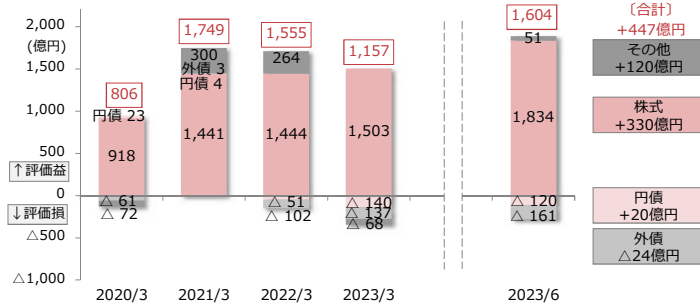
その他有価証券評価損益



連結純資産に占める政策保有株式



■繰延ヘッジスワップ評価損益勘案後



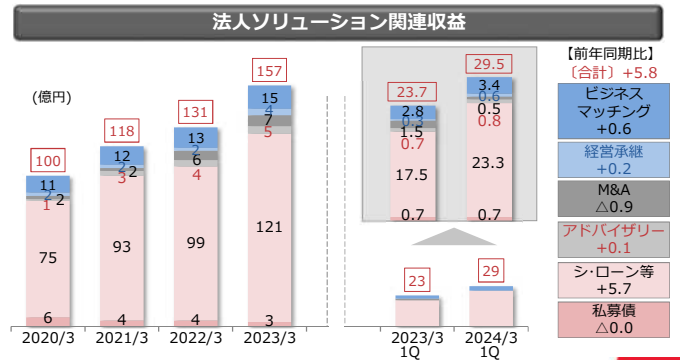
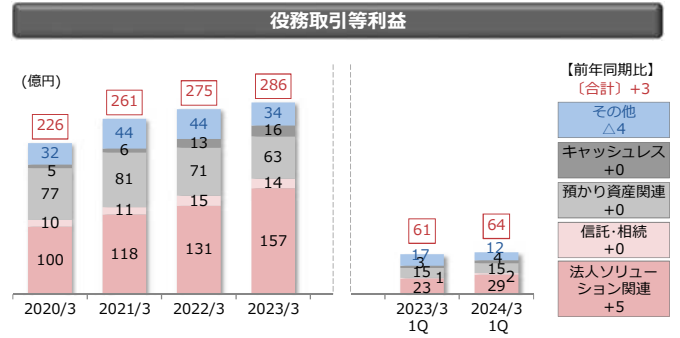
Copyright © 2023 The Chiba Bank, Ltd. All Rights Reserved.

- その他有価証券の評価損益は、株高により大きく改善しました。
- 一方、外債は海外金利の上昇によって評価損が拡大しましたが、金利スワップによるヘッジ後の評価損益は24億円の悪化に留まり、その他有価証券の評価損益全体では3月末比で447億円増加となりました。
- 9ページをご覧ください。

(億円)	2023/3	2024/3	前年同期比
	1Q	1Q	
役務取引等利益	61	64	3
役務取引等収益	102	114	11
役務取引等費用(△)	41	49	8
<b>&lt;主な内訳&gt;</b>			
うち預かり資産関連	15	15	0
うち投信手数料(信託報酬)	4	4	0
うち投信手数料(販売手数料)	2	1	△0
うち年金・一時払終身保険手数料	3	4	0
うち平準払保険手数料	2	4	1
うち金融商品仲介手数料	1	0	△0
うち法人ソリューション関連	23	29	5
うち私募債	0	0	△0
うちシ・ローン等	17	23	5
うちアドバイザー手数料	0	0	0
うちM&A手数料	1	0	△0
うち経営承継アドバイザー手数料	0	0	0
うちビジネスマッチング手数料	2	3	0
うち信託・相続関連	1	2	0
うちキャッシュレス関連	3	4	0
うち為替関連	31	32	0
うちローン支払保険料・保証料(△)	23	29	5

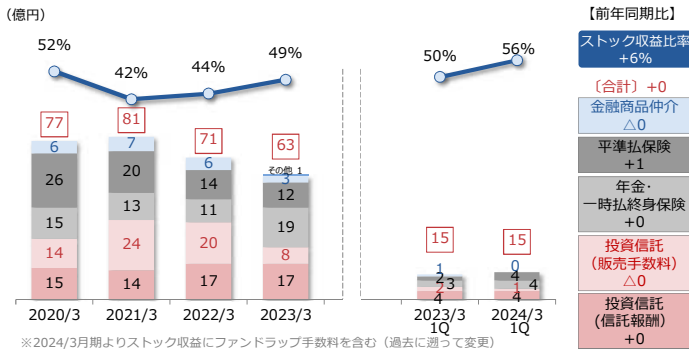
※ 2024/3月期より、経営承継アドバイザー業務は信託・相続関連から法人ソリューション関連へ区分を変更(過去に遡って変更)

Copyright © 2023 The Chiba Bank, Ltd. All Rights Reserved.

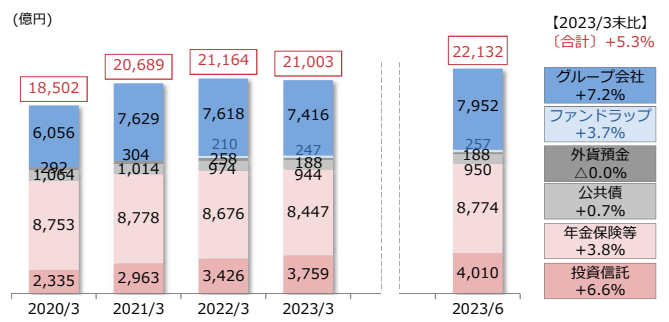


- 役務取引等利益は、法人ソリューション関連、特にシ・ローン等が好調であり、全体で前年同期比3億円増加の64億円となりました。
- 預かり資産関連は、前年同期と同水準です。この詳細について説明しますので10ページをご覧ください。

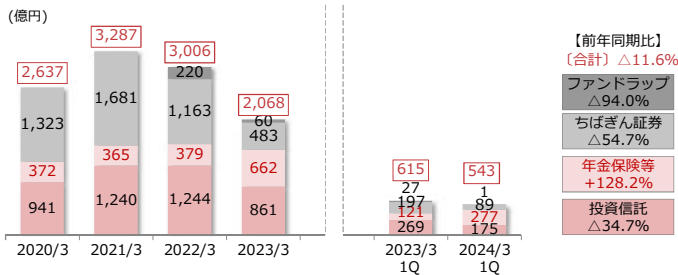
預かり資産関連収益



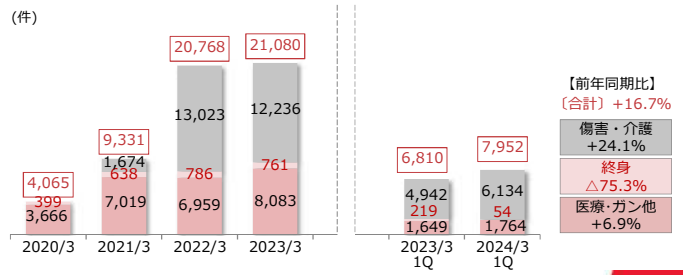
預かり資産残高 (グループ合計)



預かり資産販売額 (グループ合計)



保障性保険 取扱件数



Copyright © 2023 The Chiba Bank, Ltd. All Rights Reserved.

※受付ベースの件数

- 預かり資産関連収益は、横ばいで推移する中でもその中身には前向きな変化がありました。
- フローからストック重視へと方針を転換していますが、ストック収益の比率は前年の50%から56%に上昇しました。
- これは、新提案ツールである「おかねのバスケット」を導入したことで、顧客本位の営業がさらに浸透してきたためと捉えています。
- また、4月からアプリでの投信販売がスタートしたことは、残高増に寄与していると考えています。これらを受けて、グループ全体の預かり資産残高が3月末比で5.3%増加しています。
- なお、ちばぎん証券での仕組債販売は昨年8月から既に取扱を停止していることから、業務改善命令が金融商品販売に与える直接的な影響はほとんどなく、その他の分野への間接的な影響も見られません。
- 11ページをご覧ください。

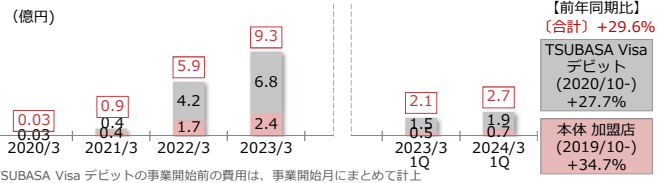
キャッシュレス事業収支

		(億円)		
		2023/3	2024/3	前年同期比
		1Q	1Q	
本体事業 合計	利益	3.8	4.5	0.6
	収益	10.2	13.6	3.3
	費用(△)	6.4	9.0	2.6
本体 新規事業 合計	利益	2.1	2.7	0.6
	収益	4.9	8.3	3.3
	費用(△)	2.8	5.5	2.7
本体 加盟店	利益	0.5	0.7	0.1
	収益	3.0	5.8	2.7
	費用(△)	2.5	5.0	2.5
TSUBASA Visa デビット	利益	1.5	1.9	0.4
	収益	1.8	2.4	0.6
	費用(△)	0.3	0.4	0.1
本体 既存カード 事業	利益	1.7	1.7	0.0
	収益	5.3	5.2	△ 0.0
	費用(△)	3.5	3.4	△ 0.0
関連会社 (ちばぎんJCB ちばぎんDC)	利益	2.7	2.5	△ 0.2
	収益	12.5	12.9	0.4
	費用(△)	9.7	10.4	0.7
(参考)				
グループ 合計	利益	6.6	7.0	0.4
	収益	22.7	26.5	3.8
	費用(△)	16.1	19.5	3.3

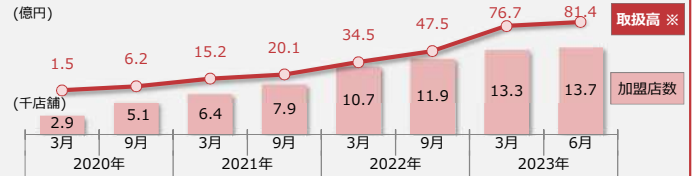
※関連会社の費用には、人件費等の営業費用も含めて記載

Copyright © 2023 The Chiba Bank, Ltd. All Rights Reserved.

本体新規事業 利益推移



本体加盟店事業 加盟店数・取扱高



TSUBASA Visa デビット 会員数・取扱高



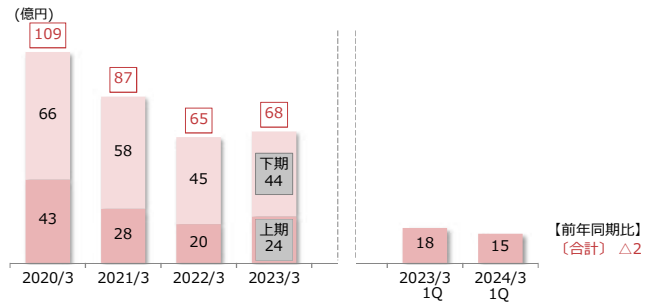
※取扱高：該当月における1ヵ月間の決済額

- キャッシュレス事業は、加盟店数や会員数が着実に増加しており、取扱高も拡大しています。
- 利益は、本体事業で0.6億円増加の4.5億円、グループ合計で7億円で着地しました。
- 12ページをご覧ください。

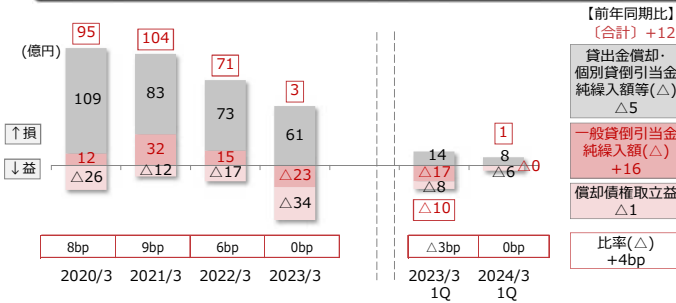
与信関係費用

(億円)	2023/3		2024/3		前年同期比
	1Q	1Q	1Q	1Q	
与信関係費用 (△)	△ 10	1	△ 12		
一般貸倒引当金純繰入額 (△)	△ 17	△ 0	16		
不良債権処理額 (△)	6	2	△ 4		
貸出金償却・個別貸倒引当金純繰入額等 (△)	14	8	△ 5		
うち個別貸倒引当金純繰入額 (△)	6	△ 0	△ 6		
うち新規発生 (△)	18	15	△ 2		
うち既先 (△)	1	1	0		
うち回収等	4	8	3		
償却債権取立益	8	6	△ 1		
与信費用比率 (△)	△3bp	0bp	4bp		

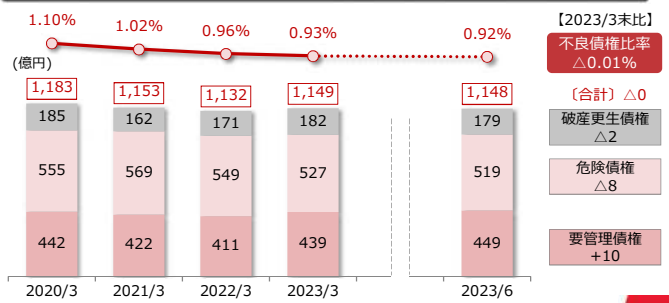
不良債権 新規発生



与信関係費用(△) 推移



金融再生法開示債権・不良債権比率



Copyright © 2023 The Chiba Bank, Ltd. All Rights Reserved.

- 与信関係費用は前年同期に比べて1 2 億円増加となりました。これは、前期は一般貸倒引当金の戻入が1 7 億円ありましたが、今期は戻入がほとんどないことが主な要因です。
- 新規発生は2 億円減少しており、与信関係費用全体の計上額は1 億円に留まっております。
- 当行では取引先に対する伴走支援を徹底していることから、不良債権比率は0.9 2 %と低く、地銀トップレベルの健全性を維持しています。
- 1 3 ページをご覧ください。

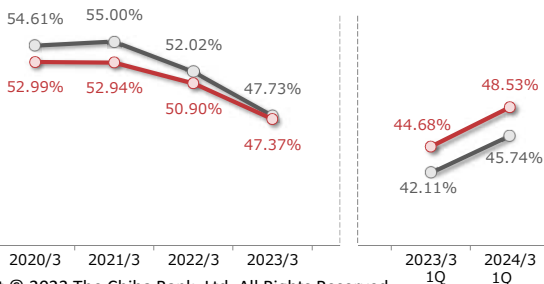
経費・OHR

単体	2023/3		2024/3	
	(億円)	1Q	1Q	前年同期比
経費		204	211	6
人件費		99	101	1
物件費		88	93	4
税金		16	17	0
OHR		42.11%	45.74%	3.62%

連結	
OHR	44.68% 48.53% 3.85%

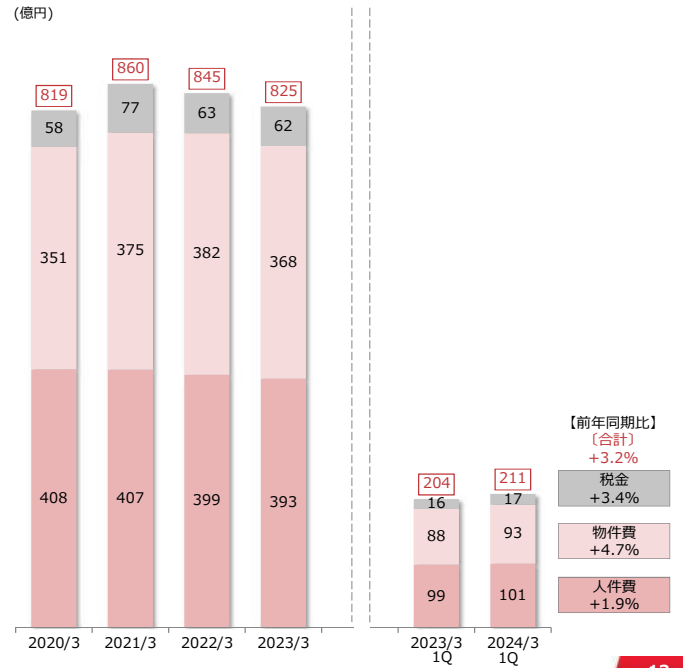
※ OHR：経費÷（業務純益－債券関係損益等＋一般貸倒引当金繰入額＋経費）

OHR推移



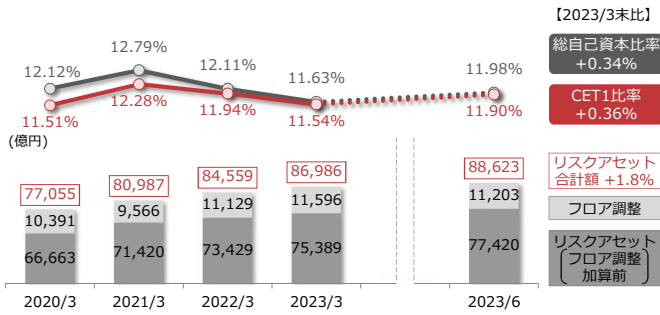
Copyright © 2023 The Chiba Bank, Ltd. All Rights Reserved.

単体 経費推移

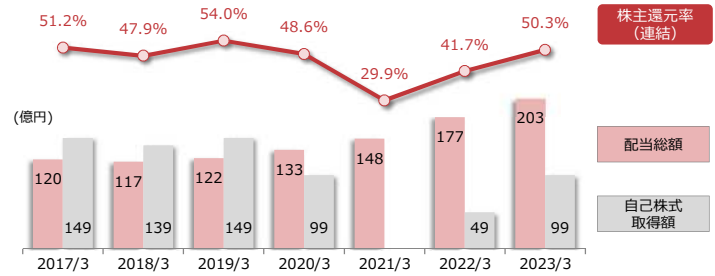


- 経費は、物件費が4億円増加しており、全体でも6億円増加しましたが、中計で掲げた戦略的投資や、中途採用を強化したこと等によるものであり、年度計画848億円に対する進捗率は24.9%と、計画通り進捗しています。
- OHRは、上昇しましたが、戦略的投資が先行しているためであり、引続き50%を下回る低水準を維持しております。この投資は、今後のトップライン増強や経費削減に寄与してくるので、中計最終年度には目標として掲げる45%程度を達成することは十分に可能であると考えます。
- 14ページをご覧ください。

連結 自己資本比率・リスクアセット額

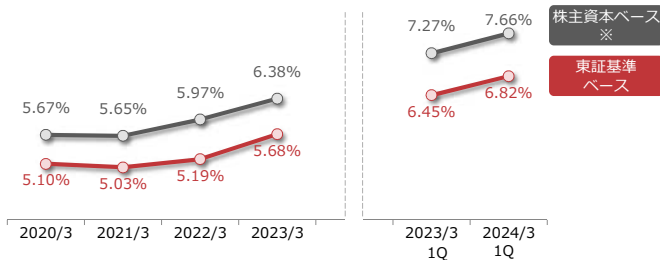


株主総還元

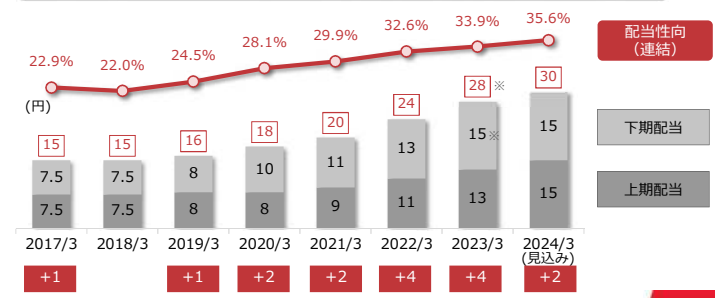


連結ROE

※評価損益変動の影響を受けないB/S上の「株主資本合計」ベース



株主配当



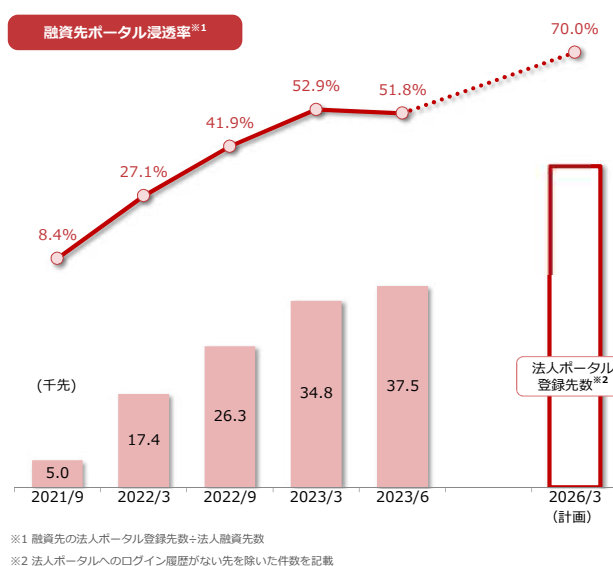
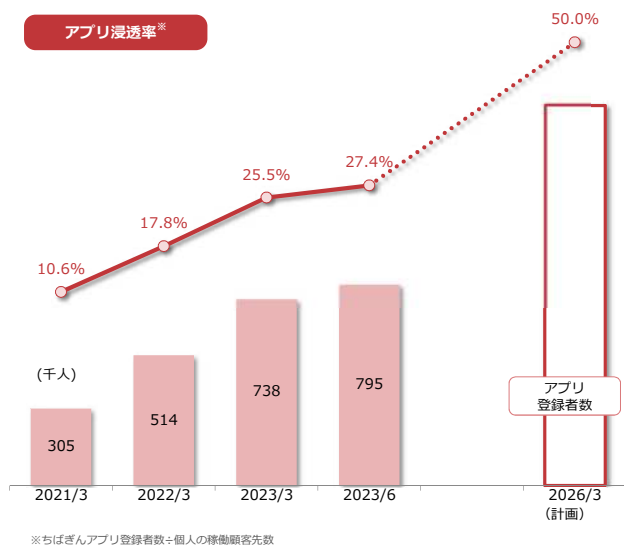
Copyright © 2023 The Chiba Bank, Ltd. All Rights Reserved.

※うち2円は記念配当

- 自己資本比率は、有価証券評価差額金の改善から、CET1比率が11.9%に上昇しました。なお、この数値を今中計でターゲットレンジを定めている有価証券評価差額金を除いたバーゼルⅢ最終化・完全実施ベースの水準で試算した場合、11.5%程度とレンジ内に収まっています。
- ROEは、四半期決算の暫定的な水準ではありますが、前年同期比で0.4ポイント程度上昇と着実に改善しております。
- 株主還元に関しましては、今後も期末に向けたリスクアセットの積み上がりや業績の着地見込み、CET1比率の水準などを勘案しながら、機動的な自社株買いの実施等を検討してまいります。
- 15ページをご覧ください。

## アプリ登録者数・浸透率

## ポータル登録先数・融資先浸透率



Copyright © 2023 The Chiba Bank, Ltd. All Rights Reserved.

15

- 今中計では、個人のお客さまとのデジタルチャネルでの接点を一段と高めるとともに、複数の商品を利用いただくこと、いわゆるクロスユースを進めることで、収益の底上げを図る方針です。
- アプリの登録者数は今中計期間中に150万人まで増やすことを計画しており、店頭でのお声かけや口座開設時にセットしていただくことで浸透率を引き上げてまいります。
- 法人においてもデジタルチャネルでの接点を強化します。法人ポータルを企業の事業活動にとって欠かせない基本インフラとして位置付け機能を強化します。融資取引先だけでなく純預金先も含めたあらゆるお客さまとのデジタルチャネルでの接点を強化してまいります。
- 続きまして、足元のトピックについてお話いたします。17ページをご覧ください。

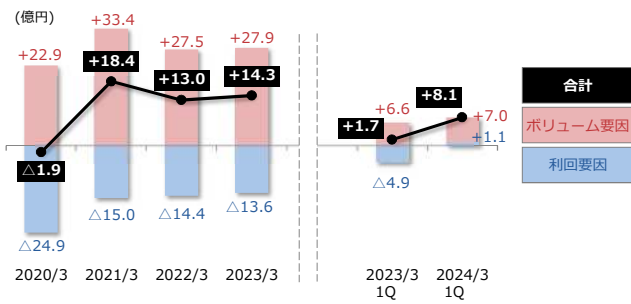


# 補足資料

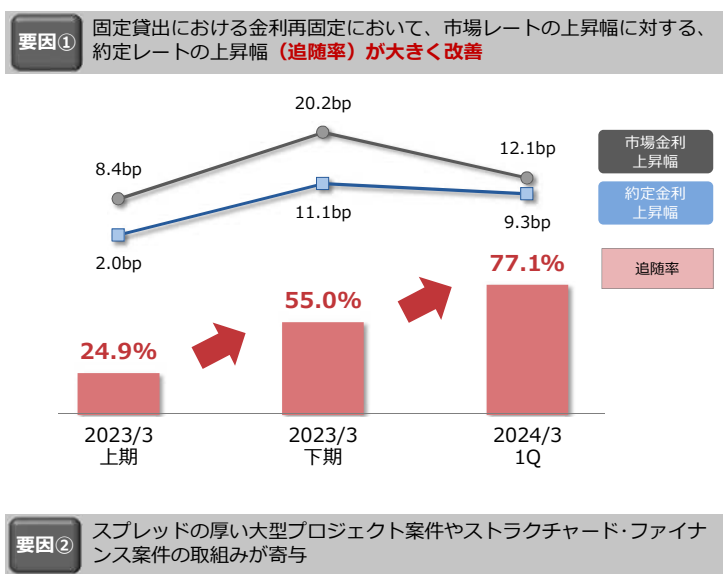


固定金利貸出の約定金利改善や高スプレッド案件投入により事業性貸出の利回りは反転

事業性貸出利息の増減要因（前年同期比）

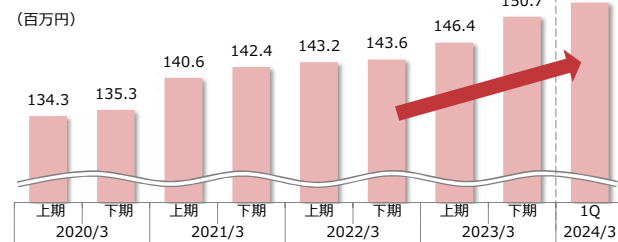


事業性資金の利回り改善



一般貸出（円貨） 1日当たり資金利益

※各半期の期末月(3・9月) [2024/3 1Qは四半期末月(6月)]の1日当たり資金利益

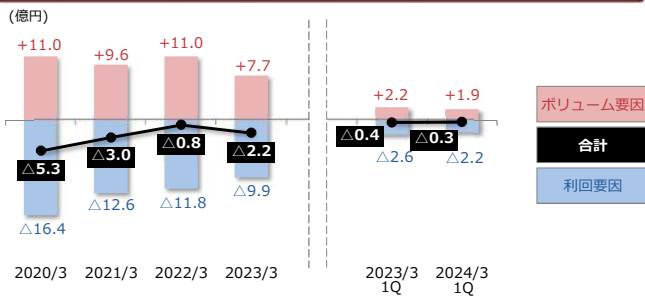


Copyright © 2023 The Chiba Bank, Ltd. All Rights Reserved.

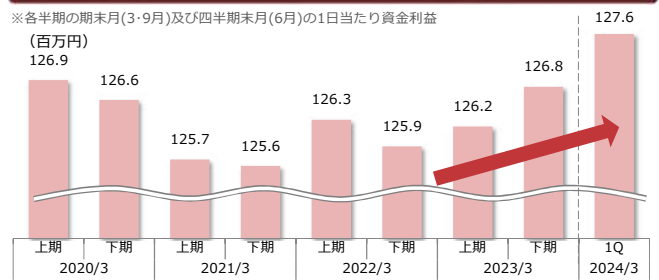
- ここからは、貸出金利上昇について、補足説明をさせていただきます。
- まず、左上のグラフの通り、事業者向け貸出の貸出利息は、これまで、金利の低下要因をボリュームで打ち返す構造でしたが、この1Qでは、残高・利回りとも前年同期比プラスに働いています。
- 利回りが反転した主な要因は、右側に記載した2点となります。
- まず 固定金利貸出の約定レート上昇です。日銀の金融政策変更によって市場金利が上昇傾向にありますが、固定金利貸出の更改時に、金利の交渉を丁寧に行っていることで、約定金利の上昇割合である「追随率」が大きく上昇し、貸出利回りの改善が進んでいます。
- 追随率が改善していくことで、市場金利の上昇が貸出利回りの上昇に繋がり、今後の資金利益の増加に寄与すると考えています。
- 利回り反転のもう一つの理由は、高スプレッド案件の取組みであり、スプレッドの高い大型プロジェクト案件やストラクチャードファイナンス案件を多く取り組んだことも金利の改善につながっています。
- 続いて、ローンの貸出金利の状況についてご説明します。18ページをご覧ください。

無担保ローンの残高増加がローン全体の資金利益を底上げ

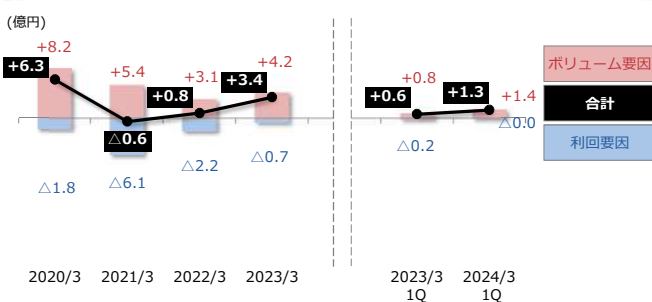
住宅ローン利息の増減要因 (前年同期比)



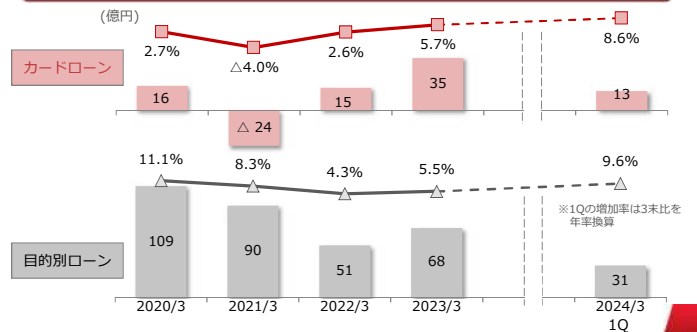
ローン 1日あたり資金利益



無担保ローン利息の増減要因 (前年同期比)



無担保ローン残高増加額・増加率 推移



Copyright © 2023 The Chiba Bank, Ltd. All Rights Reserved.

- 右上のグラフの通り、ローン全体の1日あたり資金利益は増加基調をたどっており、底打ちが確認できます。
- 資金利益増加に寄与しているのは無担保ローンであり、右下のグラフの通り、2021年3月期は個人消費の落込みからカードローン残高が減少しましたが、それ以外の期では一貫して増加基調をたどっています。
- カードローンでは非対面で取引が完結するアプリにおける「oneローン」を新たに商品として投入しており、one to one マーケティングによりお客さまに個別にアプローチできる商品として、契約数が伸びており、今後の残高増加に寄与することが期待できます。
- また、左下のグラフの通り、無担保ローンでは利回り低下要因も無くなっており、残高増加がローン全体の資金利益を底上げしています。
- 19ページをご覧ください。

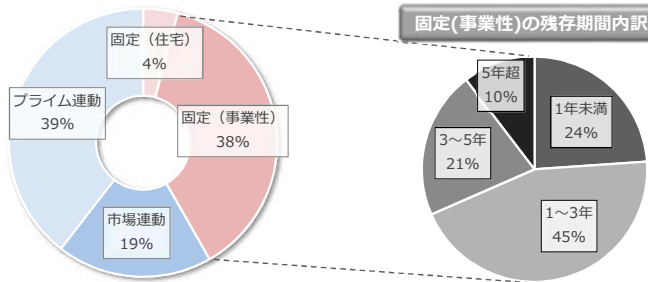
円長期金利上昇に伴う貸出の資金利益改善は、10bpあたり8億円 (2026/3期)

(参考:5月決算説明会プレゼン) YCC・マイナス金利が解除された場合のシミュレーション

想定シナリオ	内訳	効果額 (億円)
■ 2023年1Q (4月~6月) ・ YCCの見直し ▶ 長期金利上昇: 効果①②	効果①: 長期金利上昇による貸出金利増	+50
	効果②: 長期金利上昇による円債利息増	+18
	効果③: 短期金利上昇による貸出金利増	+21
	効果④: 金利上昇による預金利息増	▲13
■ 2023年2Q (7月~9月) ・ YCC撤廃 ▶ 長期金利上昇: 効果①②	合計 (税引前)	75
・ マイナス金利解除 ▶ 短期金利・預金金利上昇: 効果③④	増益効果 (税引後)	+50億円 (2026/3期 見込額)

3年後のROE押し上げ効果 +0.5%

貸出金の金利別内訳



Copyright © 2023 The Chiba Bank, Ltd. All Rights Reserved.

(New) 今般・今後の金利上昇による増収効果シミュレーション

① 7月の日銀金融政策変更に伴う貸出金収益への影響額

	24/3期	26/3期
長期金利上昇による貸出金利増 (左記 効果①)	+1億円	+10億円 (ROE +0.07%)

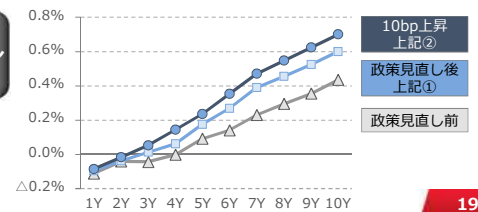
前提条件 ■ 日銀金融政策発表翌営業日(7/31)の市場レートに基づき算出 (10年国債利回り: 0.60%)

② 長期金利がさらに10bp上昇した場合の追加増収額

	24/3期	26/3期
長期金利上昇による貸出金利増 (左記 効果①)	(追加) +1億円	(追加) +8億円 (ROE+0.05%)

前提条件 ■ 過去のイールドカーブ変動実績に基づき、年限毎に上昇幅を調整 (10年+10bp、5年+6bp、3年+4bp)  
■ 金利上昇に対する追従率を60%と想定

上記シミュレーションの前提金利水準



- 最後に、7月の日銀の金融政策変更に伴う市場金利上昇が、収益に与える影響について説明します。
- 中計では、金融政策変更の影響を織り込まずに、最終年度2026年3月期の連結純利益750億円を組み立てています。
- 左上に記載の通り、5月の決算説明会において、想定される金利シナリオでの収益増加見込み額を、トップラインで75億、ボトムラインで50億と説明いたしました。
- この場合、当行のROEは0.5%程度押し上げられる試算となります。
- ただし、当時のシナリオと足元では金利環境が異なっていることから、改めて試算しました。
- 金融政策決定会合の翌営業日となる7月31日に、10年国債の利回りは0.6%まで上昇しました。
- 長期金利の上昇により、固定金利貸出の約定レート改善が見込まれますが、この影響額を試算したところ、今期の資金利益への影響がプラス1億円、2026年3月期がプラス10億円となります。
- また今後、長期金利が一段と上昇した場合、10ベーシスポイントごとに今期資金利益が1億円、2026年3月期の資金利益が8億円増加する見込みです。
- なお、マイナス金利解除が資金利益に与える影響は、当初試算時から変更はございません。
- 私からの説明は以上です。ご清聴ありがとうございました。

本資料に関するご意見、ご感想、お問い合わせは  
下記 I R 担当までお願いいたします。

株式会社 千葉銀行経営企画部（I R 担当）

Tel : 043-301-8459  
Fax: 043-242-9121  
E-Mail: ir@chibabank.co.jp

本資料は、情報の提供のみを目的として作成されたものであり、特定の証券の売買を勧誘するものではありません。

本資料に記載された事項の全部又は一部は予告なく修正又は変更されることがあります。本資料には、将来の業績にかかる記述が含まれています。こうした記述は、将来の業績を保証するものではなく、リスクや不確実性を内包するものです。将来の業績は、経営環境の変化等により異なる可能性があることにご留意ください。